平成27年度 第1回美術館セミナーの報告

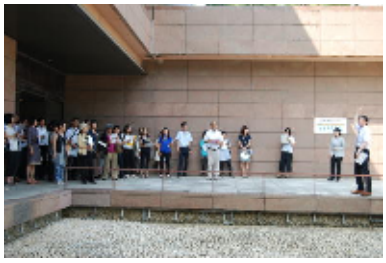
1　日　時　　平成27年8月6日（木）午後1時30分～午後4時
2　場　所　　茨城県近代美術館　地階講堂
3　参加者　　県内の保育所，幼稚園，小学校，中学校，高等学校の教員
　　他の美術館職員，当館ボランティア
4　活動内容
　13:00～13:30　受付（地階講堂前）
　13:30～13:50　オリエンテーション
　　「学校と美術館との連携事業紹介」

当館作成指導者向け冊子『美術館へ行こう』をもとに学校と美術館との連携事業の紹介をした。
来館プログラムとして，
・ボランティアガイド
・館内ハローミュージアム
・鑑賞とワークショップ
・簡易模写
を紹介した。
特に学校団体として利用していただくために，来館見学コース例やボランティアガイドを紹介し，他の施設と併せて来館することを勧めた。
（参加者には，『美術館へ行こう』を１人１冊配布）

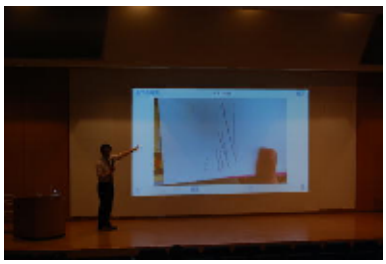
14:00～16:00　美術教育講演会
　「これからの鑑賞教育～子どもの見方・感じ方にふれる～」
　講師：西村 徳行（にしむら とくゆき）氏　　東京学芸大学准教授

【プロフィール】
1971年、京都市生まれ。東京学芸大学を卒業後、同大学院を修了。東京都足立区立花畑中学校、筑波大学附属小学校を経て、2014年より現職。専門は美術科教育学、鑑賞教育。文部科学省小学校学習指導要領解説図画工作編作成協力者、国立教育政策研究所「評価規準，評価方法等の工夫改善に関する調査研究」協力者会議（小学校、図画工作科）委員等を歴任。現在、国立美術館の教育普及事業等に関する委員会委員を務める。主著に『図画工作・みかたがかわる授業づくり』（東洋館出版社）、『図工ドリル』（美術出版サービスセンター）等。「みかたをかえる」をテーマに、子供たちの「いたずら心」をくすぐる題材を開発。美術館と連携した鑑賞学習にも力を入れてきた。現在は、「みること」を軸にした図画工作・美術科教育カリキュラムの研究をおこなっている。

①サウンドマップ「音を形に表そう。」

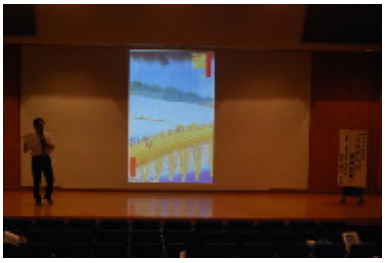


西村先生「目を閉じてください。何の音が聞こえますか？」
参加者「サイレンの音（遠ざかっていく音）消防車，救急車」「セミの鳴き声」「車の音」「子どもの声」「風の音」等。
当館地階講堂から外へ出て，しばらく目を閉じ，聞こえてくる音を小さな画用紙に形で描き表した。参加者からは，同じ場所に居ても聞こえてくる音が違っていたり，同じ音を聞いても表し方が違っていることについて，理解していても面白いとの声があった。



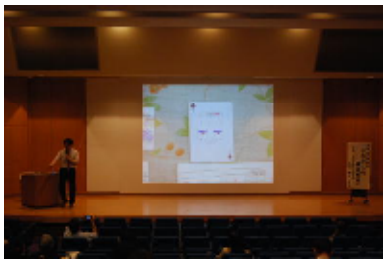
【地階講堂に戻り，参加者の作品を映像に映し出して全員で鑑賞】

②どんな音が聞こえてくる？



歌川広重作「大はしあたけの夕立」の作品をＢ４サイズに印刷して参加者に配り，作品から聞こえてくる音をまわりの余白，作品の上に描き表した。
真っすぐな線，ギザギザ，グルグルらせん状の線など参加者によって様々。その後，作品のどこから聞こえるか発表してもらった。参加者からは，「自分が気付かないところから音を見つけている方がいる。」「音楽専科なので，音楽の授業のヒントにもなって興味がわいた。」
音を見出すことによって作品をよく「みる」鑑賞方法を教えていただいた。

③西村徳行先生の実践事例を通して



様々な実践事例を紹介していただいた。子どもたちの「いたずら心」をくすぐる題材紹介は参加者にとって非常に参考になったようだ。

［参加者からの声（アンケートより）］
・自分自身も新たな視点をもつことができた。
・「みる」ことの面白さ，深さを再確認した。
・鑑賞の授業のとらえ方が広がった。子どもの「いたずら心」をくすぐる「しかけ」については，図工以外の」教科にも共通するのでいつも心掛けたいと思った。
・西村先生の「みる」の考え方は，日頃の自分の学習活動になかったすばらしい考えとそれを受け取る機会でした。
・自分が考える鑑賞のイメージががらっと変わりました。実際に体験してみて，自分も楽しんで鑑賞することができました。
・２学期からの授業に生かしたい。
・ワークショップありで，楽しく受講者を巻き込んだよいセミナーでした。新しい視点で授業のあり方を考えることができた。
・鑑賞は楽しいと感じたので，子どもたちにも伝えたいと思う。